

切り分けられた名画

「ショパンとジョルジュ・サンド」の肖像



Frédéric François *Chopin*
George Sand
Amandine-Aurore-Lucile Dupin

切り分けられた名画

「ショパンとジョルジュ・サンド」の肖像



フランス・ロマン派の巨匠ドラクロワが、1838年に描いた一枚の絵「[ジョルジュ・サンドの前でピアノを弾くフレデリック・ショパン](#)」・・・

絵はピアノを弾いているショパンの背後で恋人のジョルジュ・サンドがその音楽に聴き入っている構図で、二重肖像画として、縦100×横150cmのキャンバスに描かれ、ドラクロワの死後、今は美術館になっている、サン・ジェルマン・デ・プレ界隈にある、フルスタンベール広場のアトリエ兼住居に置かれたままの状態で見つかった。その後、1863～73年頃に、絵は別々に切り分けられ、[ショパンの部分](#)はルーブル美術館所蔵に、[ジョルジュ・サンドの部分](#)は、競売でデンマークの実業家に買い取られ、今はコペンハーゲンから30分ほどの距離にある[オードルuppゴー美術館](#)(Ordrupgaard)に[展示](#)されている・・・

そして、切り分けられたショパンのキャンバスサイズは縦45.5×横37cm、ジョルジュ・サンドのは少し大きく縦79×横57cmで、ルーヴル美術館に残されていたドラクロワの[デッサン\(スケッチ\)](#)からも、間違いなく一枚の作品であったことも判明した・・・

[フレデリック・フランソワ・ショパン](#)(フランス語: Frédéric François Chopin／ポーランド語: Fryderyk Franciszek Chopin) 1810年～1849年・・・

作曲のほとんどをピアノ独奏曲が占め、様々な形式、美しい旋律、半音階的和声法などによってピアノの表現様式を拡大し、ピアノ音楽の新しい地平を切り開き「ピアノの詩人」とも呼ばれるショパンは、ポーランドに帰化したフランス人の父と、ポーランド貴族の母の間に生まれた・・・

そしてショパンが、ポーランドを出国しパリに向かう目の前の1830年、パリでは皇帝ナポレオンの後に、復古王政の王位に就いたブルボン王朝直系のルイ18世に反発し、民衆が立ち上がり[7月革命](#)が勃発、3日間にわたる武装蜂起によって王政を倒し、ブルボン朝は消滅する。その七月革命にドラクロワは民衆のエネルギーを「民衆を導く自由の女神」に描いている・・・その翌年、[ポーランド](#)ではロシア帝国の支配に対して民衆がワルシャワで蜂起し革命政府を樹立し1831年1月に独立を宣言。しかし同年9月にロシアの大軍によって占領、民衆は弾圧され、その年、ショパンはパリに向かう途中のシュトゥットガルトで、ワルシャワ陥落の報を聞き、その衝撃から「革命のエチュード」を作曲する・・・

そして、自由を求める群衆の主義や主張が錯綜し、七月革命の余熱の残るパリで、ショパンはヴァリエテ座や現・グレヴァン蠟人形館が立ち並ぶ繁華街、ポワソニエール大通り27番地：Bd Poissonnièreに居を構え、殆ど活動の場をパリと定め、1832年2月26日に初の演奏会を開き、スターダムへの階段を昇り始める。ショパン22歳・・・

[ジョルジュ・サンド](#)(George Sand) 1804年～1876年

フランスの女流作家、本名をオーロール・デュパン(Amandine-Aurore-Lucile Dupin)デュドヴァン男爵夫人(Baronne Dudevant)という・・・

裕福な軍事貴族の家系に生まれ、父が事故で早死のため、ノアンにある父方の祖母の館で過ごし、1822年にカジミール・デュドヴァン男爵(Baron Casimir Dudevant)と結婚し1男1女を産み、1831年にジュール・サンドー（Jules-Sandeau）との合作で処女作「Rose et Blanche」を書き、これ以後「サンド」のペンネームを使い1832年「アンディアナ」を発表しベストセラーとなる。29歳のサンドは夫と別居し、ふたりの子供を連れてパリへやってくる。彼女は男装し幾多の文化人の社交界に出入りし、自立した女性として、又、フェミニスト(男女同権を主張する人)として、自由奔放に多くの男性との恋愛を繰り返す・・・

そして1836年、26歳のショパンは、マリー・ダグー伯爵夫人(リストの愛人)のサロンで、ズボンをはき、葉巻を吸い「男装の麗人」と呼ばれるリストの親友、ジョルジュ・サンドと出会い、その後1838年頃に恋人同士となり、2人の関係は始まる・・・

ジョルジュ・サンドと親しかった[画家ドラクロワ](#)は、北アフリカを訪問後の1834年に、後の印象派に光と色彩表現で多大な影響を与えたと云われる「アルジェの女たち」を発表し、ジョルジュ・サンドの紹介でショパンとも交遊を深め、1837年の自画像制作の後、1838年にこの絵を描いている。

その年の秋、ショパンは持病の結核療養のためにジョルジュ・サンドとスペインのマヨルカ島に行き「24の前奏曲集」を完成し、半年ほど滞在した後、マヨルカからイタリアへ、この旅でショパンの持病の結核が悪化し、1839年に[ノアンにあるジョルジュ・サンドの館](#)でしばらく静養し、彼女の献身的な看護ですっかり健康を取り戻し「ピアノ・ソナタ第2番 変ロ短調」を完成させる。これ以降、ショパンは夏をノアンで過ごし「幻想曲／バラード第4番／英雄ポロネーズ／舟歌／幻想ポロネーズ」など数多くの傑作が作曲された。そしてジョルジュ・サンドも、田園小説で名高い傑作「愛の妖精」を発表し、ノアンのジョルジュ・サンドの館には、ドラクロワやフロベール、バルザックといった著名人が訪れたり、パリでもサロンを開き多くの文化人を援助し、ロマン派の黄金期を迎える・・・

しかし、1844年にショパンは父ニコラスの死に衝撃を受けて、彼の最も偉大な作品である「ピアノ・ソナタ第3番 変ロ短調」を作曲後、ジョルジュ・サンドとの仲もこじれだし、1845年には成人した2人の子供に、長男モーリスを溺愛するサンドと、ショパンを頼る娘のソランジュと、彼女の恋人の彫刻家との結婚をきっかけに確執は表面化し、家庭内のいさかいに巻き込まれ、ついに1847年にはジョルジュ・サンドとの9年におよぶ交際は決定的な破局を迎える・・・

時代も・・・

パリで1848年に[二月革命](#)が勃発し、七月王政は倒れ第二共和政の臨時政府が始まり、ジョルジュ・サンドは共和主義者として政治活動に参加するが、反動勢力がもりかえし6月には民衆の惨敗に終り、ルイ・ナポレオンの[第二帝政](#)が始まり、失望のパリを後に故郷ノアンの館に帰る・・・

そして、あの皇帝ナポレオン死後の、ダヴィッドやアングルの新古典主義をとびこえた、ユゴーやドラクロワ、ショパンやジョルジュ・サンドたちのロマン主義も、二月革命後のルイ・ナポレオンの第二帝政期には、写実主義や自然主義にその座を譲り、美の時は、象徴主義を通り、長い混迷の時を経て印象派にたどりつく・・・

そして、ショパンは・・・

イギリスへと演奏会に旅立ち、パリに帰国後の1849年、[ヴァンドーム広場の中庭に面した部屋](#)で、長旅で衰弱し持病の結核も悪化、ポーランドからの姉に看取られながら帰らぬ人となる。遺言でモーツァルトのレクイエムが流れる中、マドレーヌ教会で短い39年の生涯を閉じた。彼の意向により心臓はポーランドに持ち帰られ、ワルシャワの聖十字架教会の柱の中に納められ、遺体は[パール・ラシェーズ墓地に埋葬](#)される。しかしその時、ジョルジュ・サンドの姿はなかった・・・

その後のジョルジュ・サンドは・・・

18世紀に建てられた故郷ノアンのジョルジュ・サンドの館に隠棲し、執筆に専念。26巻にも呼ぶ書簡集を含む著作、短編を含む約70編の小説、30編ほどの劇作、多数のエッセーや評論を残し、田園をこよなく愛し、フランスの最初の女性作家として72年の生涯を閉じた。[彼女は館にある庭園で静かな眠りにつき](#)、こう書き記している「愛しなさい。人生で良いものはそれだけなのですから」・・・

そして、問題の絵は・・・

二人との深い友情に結ばれていたドラクロワには描ききれず、未完成ではなかったか？別れた絵である以上切り分けて2枚の方が商品価値は高い？など、今もその真意はわからない・・・

だがしかし、その絵は、若い二人の愛の遠い記憶の彼方に消えた、まぎれもない名画だったに違いない・・・

1838年、ドラクロワ40歳・作「ジョルジュ・サンドの前でピアノを弾くフレデリック・ショパン」・・・当時ショパン28歳、ジョルジュ・サンド34歳・・・

(以下・主要参考文献↓・注：一部本文中にリンクさせています)

TV東京 | 美の巨人たち・ドラクロワ「ショパンの肖像」

<http://www.tv-tokyo.co.jp/kyojin/data/101204/>

ショパンとジョルジュサンドの肖像（翻訳サイト）

http://translate.google.co.jp/translate?hl=ja&langpair=en%7Cja&u=http://en.wikipedia.org/wiki/Portrait_of_Fr%25C3%25A9d%25C3%25A9ric_Chopin_and_George_Sand

Portrait_of_Fr%25C3%25A9d%25C3%25A9ric_Chopin_and_George_Sand

ショパンとジョルジュサンドの肖像（英語サイト）

http://en.wikipedia.org/wiki/Portrait_of_Frédéric_Chopin_and_George_Sand

フレデリック・ショパンの肖像（1838年・ルーヴル美術館所蔵）

http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:Eugène_Ferdinand_Victor_Delacroix_043.jpg

ジョルジュ・サンドの肖像（1838年・オードルuppゴー美術館蔵）

http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Eugène_Ferdinand_Victor_Delacroix_041.jpg

「ジョルジュ・サンドの前でピアノを弾くフレデリック・ショパン」

ルーヴル美術館所蔵のスケッチ：Sketch for the painting (at Louvre)

http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Delacroix,_Chopin_and_Sand,_sketch.jpg

オードルuppゴー美術館 | オフィシャルサイト

<http://www.ordrupgaard.dk>

オードルuppゴー美術館 | ジョルジュ・サンドの肖像

Eugène Delacroix (1798–1863): Portræt af George Sand | Olie på lærred | 78 x 56,5 cm | 1838

<http://www.ordrupgaard.dk/emner/samling-og-arkitektur/den-franske-samling/delacroix-george-sand-.aspx>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/ウジェーヌ・ドラクロワ>

ポーランド | 2.8 独立運動の時代

<http://ja.wikipedia.org/wiki/ポーランド>

七月王政 | 第二共和政 | 第二帝政

<http://ja.wikipedia.org/wiki/フランスの歴史>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/七月革命>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/1848年革命>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/1848年のフランス革命>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/フレデリック・ショパン>

ショパンの墓（パリのペール・ラシェーズ墓地）

http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:Pere-Lachaise_Chopin_grave.jpg

<http://ja.wikipedia.org/wiki/ジョルジュ・サンド>

メゾン・デ・ミュゼ・ド・フランス | マダム・ド・モンタランベールのミュゼ訪問

ジョルジュ・サンドの家：Maison de George Sand

<http://www.museesdefrance.org/museum/serialize/mont-back/0810/montalembert02.html>

ショパンウェブ | ショパンの生涯・生い立ち

<http://www.chopin-web.com/vie/index.php>

PTNA | パリ発ショパンを廻る音楽散歩

http://www.piano.or.jp/report/04ess/prs_cpn/

メゾン・デ・ミュゼ・ド・フランス | マダム・ド・モンタランベールのミュゼ訪問

パリのロマン派美術館（Musée de la Vie Romantique）

<http://www.museesdefrance.org/museum/serialize/mont-back/0510/montalembert.html>

日本ジョルジュ・サンド学会 | 日本ジョルジュ・サンド学会ホームページ

<http://web.cla.kobe-u.ac.jp/staff/sakamoto/2008/05/post-3.html>

（注意：PDFおよびePubではリンクしていない場合があります）

